

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101363		
法人名	有限会社シルバーケア		
事業所名	グループホーム春日苑川内		
所在地	徳島市川内町沖島273		
自己評価作成日	平成28年9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年10月12日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「我が家のような環境で暮らす」という思いで開設し、木材をふんだんに使用した平屋建てで、敷地内には中庭や花壇、菜園などのある、ゆとりを感じられる空間となっている。「地域の中で、一人の人として当たり前の生活が出来るように支援していきます」という理念の下、地域に根付いた事業所を目指している。また、職員は入居者様のできること探しに取り組み、入居者様ひとりひとりの持てる力を引き出すように努めている。ユニットごとに特色のある実践を行いつつ、ユニット間の交流も盛んに行い、相互に研鑽し合ってサービスの質の向上を目指している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から少し入った田畑の広がる平地に立地しており、静かで家庭的な雰囲気的环境中に位置している。木造平屋建てのオールバリアフリーであり、菜園や中庭も整備され、広々とした空間で安全面などにも工夫されている。職員は、利用者一人ひとりの尊厳や権利を尊重し、寄り添うケアを実践している。利用者は、外出の機会も多く、穏やかで笑顔たえないが生活を送っている。代表者や管理者は、職員との関係が良好で、コミュニケーションが十分に図られており、意見や気づきを活かして、サービスの質向上に向け取り組んでいる。独自の家族アンケートからも満足度が高く、質の高いチームケアが実践されている。実習生や研修生を積極的に受け入れ、相互の地域交流も努めている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知症であっても地域の中で一人の人として当たり前な生活が出来る様に支援していきます。」という理念を掲げ毎日申し送りの際唱和し実践に努めている。	毎日の申し送りの際に、職員間で理念を唱和するとともに地域密着型サービスの意義を確認している。具体的なケアについて意志統一を図り、ケアに反映するようにしている。なお、新任職員の研修時にも理念を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が地域の一員として町内の行事等に参加し地域交流を深めている。	年1回、事業所として地域の清掃活動に参加している。婦人会等の来訪もあり、相互に交流を図るよう努めている。実習生の受け入れも積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣のスーパーや美容院等へ外出したり認知症サポーター養成講座を開いたりして認知症の人への理解や支援を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ユニット事にテーマを決め取り組んだ事柄を発表し共有を行いサービス向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、地域住民の代表者、市職員等の出席を得ている。利用者の状況や行事について報告している。しかし、出席者が固定化しており、多方面から意見を聞くための工夫や地域の協力体制を得るまでには至っていない。	事業所では会議時に出された意見を積極的に運営面に反映するよう努めているが、出席者の変動が少ないことなどから、今後は多方面に出席者を募ることで、様々な意見や要望等を把握するよう取り組まれない。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者にサービス等の取り組みで疑問点などがあれば積極的に相談するようにし協力関係を築いている。	職員は市担当窓口へ出向き、日頃の状況を報告して情報や助言を得ている。地域包括支援センターから入居希望者や困難事例の相談を受けるなどしており、協力関係を構築している。困難事例や課題等が発生した際には電話で相談するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を開き拘束しない方向性で周知徹底するよう努めている。	事業所では、身体拘束に関するマニュアルを作成している。年1回、職員は身体拘束の弊害に関する研修の機会を得ている。全職員が身体拘束の弊害について理解し、利用者の自由な暮らしを支援するよう努めている。職員は、外部研修にも積極的に参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や職員会議の際高齢者虐待防止について学習し安心して暮らして頂けるよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実例があり成年後見制度について苑内研修でも学ぶ機会を作り活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には利用者様家族様等に十分に説明を行い理解や納得をして頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会時等に家族様の意見や相談を聞くことで運営に反映させている。	年1回、事業所では家族会の機会を得て意向等を聞くようにしている。また、カンファレンスの際には、本人や家族から希望を聞くようにしている。家族の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見等は職員会議で検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議ユニット会議申し送り時等必要に応じ意見を出し合う事で運営に活かせるよう努力している。	毎日の朝礼や2か月に1回の全体会議時に、管理者は職員のケアに対する意見や要望を聞いている。日頃の業務においても、職員の意見に耳を傾け、働く意欲の向上や質の確保に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望を取り入れたり意見を聞くことで職員一人一人がやりがいや向上心を持って働ける職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個人に自己評価表を定期的につけてもらい面談する事によってその時々の力を把握し苑内外の研修を受けてもらう事でスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設に運営推進会議等で交流訪問したり受けたりする事でネットワークを作り活動を通しサービスの向上をさせる取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様や利用者様とコミュニケーションを図り利用者様の意思や意向を汲み取りながら無理強いをせず馴染みの関係が持てる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の意見や要望を取り入れる事で不安を取り除き信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族様の必要とされている優先されるサービスを中心に提供し他のサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等の軽作業を一緒に行う事でご本人の出来る事を探しお互いに役割を持ちながら信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時お誕生日会等には家族だけで過ごせる時間や場の提供を行っている。又年賀状やお手紙を送り日常の近況報告を行い関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの方の面会電話の受け入れの機会を作り居室やホールでゆっくり会話等を楽しむ場を提供し関係の継続を行えるよう支援に努めている。	事業所では、利用者や家族、友人間の人間関係を大切に捉え、年賀状を出したり、携帯電話を使用したりすることができるよう支援している。また、行きつけの理・美容院の継続的な利用も支援している。家族の協力を得るなどして、ドライブや外出ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌、手芸等で共同作品を作る事で皆で喜びを分かち合える場面を作り利用者同士が仲良い関係を築ける様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても近況をうかがい状況の把握を行いご本人ご家族から相談を受けられる様支援を行い関係性が途切れない様に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の充実した生活を送れる様に本人の意向を傾聴して、その人らしく生活を送れる様に支援していく。	利用者や家族から、生活リズムや習慣を聞くようにしている。職員は、日頃の利用者との関わりを通じて、希望や意向の把握に努めている。意志の表出が困難な場合には、行動や表情等から意向をくみ取るなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報の収集、分析を行い、利用者様のこれまでの生活歴、環境、過去に利用していたサービスを把握してこれからのケアに生かしていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を活用して利用者様の生活リズムを心身の状態、残存能力を活用してADLの向上に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各専門職、本人、家族の方と連絡を行い、情報の収集、アセスメントを行い、意見を取り入れてモニタリングを行い、介護計画の作成を行う。	本人や家族、主治医、関係者間で話し合いを繰り返しており、その人らしい暮らしを続けるための自立支援に向けた介護計画をチームで作成している。利用者の心身状況や変化に応じ、介護計画の変更をするなど、柔軟な対応に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の一日の様子を個別記録に書き込み、情報を共有してケアの実践を行い、介護計画に反映させる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化する多様なニーズに対応する為に提供しているサービス以外にも様々な状況に対応できるよう、サービスの強化に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出支援、生活援助を行い、地域資源を把握して本人様が心身の力を発揮して充実した生活を営めるように支援していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携して週1回以上の訪問診察を受けるシステムとなっている。本人様、家族が希望去れる、かかりつけ医の受診をおこなっている。	協力医療機関のみの受診に限定することなく、利用者や家族の希望するかかりつけ医や認知症専門医を確認するなどして、受診を支援している。必要に応じて、受診時の同行支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調を口頭で伝えて医療記録を活用して適切に受診を看護を受けれるように支援を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人様の身心身の痛みを軽減出来るよう、医療関係者と情報の共有を行い、相談を行うことで良好な関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様、家族の方の希望を聞き、事業者で、出来ることを相談して方針を皆で共有し、チームで支援を行う。	事業所では看取りに関する指針を整備している。利用者の心身状況の変化に応じて、本人や家族の意向を再確認している。かかりつけ医や関係者間で話し合い、対応方針の共有化を図るなどして、チームで支援するための体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変に対応するため介護職員により救急法の勉強会を行い消防機関との連携を行い、訓練を定期的に行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下に定期的に災害訓練を行い、危機に対応出来る様に実践力を身につけている。	年2回、消防署の協力を得て、水害を含めた日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。避難袋も整備している。職員間で話し合い、避難経路の表示を行うなどして災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライバシーを損なわないように言葉遣いや対応に注意を払い本人の気持ちを大切にされた支援を心がけている。	職員は、利用者の自尊心を傷つけないことのないよう、さりげなく、一人ひとりの行動を見守り、自己決定の場を増やすことができるよう取り組んでいる。事業所では、独自でマニュアルを作成しており、職員は尊厳やプライバシー確保について話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いを汲み取りコミュニケーションを図り、利用者様になるべく自己決定出来る様に配慮を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の個人の体調や生活ペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容を利用され毎日の衣類を選び、その人らしい、お洒落が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立に工夫し、苦手な料理が続かないように配慮する事で食事が楽しめるように支援している。	事業所では、利用者の好みや旬の食材を取り入れた献立を立てている。利用者と職員で収穫した野菜を料理に活用している。下準備や配膳、後片付けなど、利用者の状況によってできることは役割を担ってもらい、楽しく取り組むことができるようにしている。外食に出かける機会も設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御膳に名札を置き、利用者様の状態に合わせて刻み、トロミ、ミキサー食等の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の能力に合わせて毎食後、義歯の洗浄歯磨きにより口腔内の清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の個々の排泄パターンを習慣を把握して声かけを行い自立に向けた支援を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握したうえで、可能な限りトイレでの自立した排泄の支援に努めている。職員は、介助の際にはさりげない配慮を行い、プライバシーを損なうことがないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様個々の排泄記録や状態観察に基づいて適度な水分補給や散歩レク体操の運動を勧め便秘改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様個々の状態やタイミングをみて楽しんで入浴して頂けるよう心がけている。	利用者一人ひとりの希望や状況に応じた入浴を支援しており、入浴を楽しんでもらうことができるようにしている。職員は、利用者の羞恥心や不安感を取り除くよう、同性介護やプライバシーに配慮した支援を行っている。入浴を拒む利用者には、声かけや気分転換を行い、本人の意向に添った支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や生活習慣に配慮を行い昼寝の実施や就寝時間の調整を行いストレスを取り除く事で安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師により薬剤管理を行っているが薬の目的や副作用、用法や用量について理解し利用者様の体調等の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様個々の生活歴や能力に応じた生活が出来、暮らしが楽しめるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様個々の希望を確認しながらドライブや外出外食等の支援を行っている。	日頃から利用者は、散歩や買い物などに出かけている。事業所では、年間計画や月間計画を作成し、家族の協力を得るなどして外出を楽しんでもらっている。歩行が困難な方も車椅子を利用するなどして、外出することができるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			すみれ 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様がお金を持つことの大切さを理解し希望に応じ外出や買い物支援を提案しお金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親類に電話が出来るようにしたり年賀状や暑中見舞いを書いて頂き出すようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースを清潔に保ち又利用者様が安心して落ち着いて過ごして頂けるような環境作りを行っている。	共有空間は日当たりが良く、様々な場所に季節の花を生けたり、畳の間やテラスを設置したりしており、ゆったりと過ごしやすい空間となっている。また、利用者と職員で作成した作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外にも休んだり他の利用者様と談笑したり出来る場所を提供し居場所の確保に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には普段から使っていた家具や物を配置して頂き家庭と変わらず安心して過ごせる生活が出来るよう環境作りを行っている。	居室には、畳の間とフローリングがあり、入居時に利用者や家族と相談し、本人の使い慣れた家具等を持ち込んでもらっている。仏壇などを持ち込んでいる利用者もいる。利用者が居心地良く安心して過ごすことができる環境づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等の案内を大きく分かりやすく表示しご本人が安心して安全に利用出来るような環境づくりに努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	うめ 実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知症であっても地域の中で一人の人としてあたり前の生活が出来る様に支援していきます」という理念を掲げ事務室等に掲示し朝の申し送りで唱和し共有している。	「認知症であっても地域の中で一人の人としてあたり前の生活が出来るように支援していきます」という理念をかかげ毎朝の申し送りで唱和し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	常日頃から地域の一人として関わりを持ち交流を図り町内文化祭、お祭り等にも参加している。	毎月の移動図書に花屋さんや移動販売や苑庭で地域の方と交流できるように努めている。夏には花火大会、秋は御神輿、川内町民祭とで交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流を藤して認知症の理解を深める為近隣のスーパーへ出向き買い物をするなど交流を図っている。	運営推進会議に地域の方や利用者、家族の参加を呼びかけ実践報告を作ったりするなど啓発に努めている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている運営推進会議では各ユニット毎にテーマを決め報告の場を設けている。地域の民生委員、有識者包括支援センター等の方々に参加され有意義な会議を藤してサービス向上に努めている。	ユニット毎の持ち回りで取り組みの発表を行い、参加された方々からの意見やアイデアをサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは困り事、不明な点等連携を密にしサービスの向上に取り組んでいる	運営推進会議で市の包括支援センター担当者参加のもと、事業所の取り組みを発表し協力関係を築いている。また疑問点等があれば相談しサービスの質の改善に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、全体会議等での勉強会を行う中で意識付けをし身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会等を開催し、玄関の施錠を含め拘束しない取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、全体会議等での勉強会を行う中で些細な虐待も見逃さない様、万全な注意を払い虐待防止に努めている。	勉強会等で高齢者虐待防止について学ぶ機会を持ち利用者が安心して暮らせるよう防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	うめ 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事例もあり成年後見人制度について年一回の苑内研修で学び活用している。	事例があり成年後見制度について学ぶ機会を持つ事ができ活用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約の締結等の説明を行う事で疑問や不安な点等を訪ね充分な説明を行い理解を深めている。	入居時の契約や解約時は利用者及び家族等に十分な説明を行い、納得したうえで契約、解約を行っている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置やアンケートを利用するなど意見や要望を取り入れやすい環境作りにとりくんでいる。	面会時等に利用者、家族からの意見を聞くようにしている苑内に「苦情・相談窓口」のポスター掲示やご意見箱の設置をし運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行っている全体ミーティング、申し送り等で意見を出し合う機会を設けて反映させている。	定期的にユニット会議、職員会議、申し送り時に必要に応じて意見等を聞くことで運営に活かせる様努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境、労働時間勤務希望等を把握したうえで安心して働ける環境整備に努めている。	勤務希望も取り入れ職員一人ひとりがやりがいや向上心を持って働ける環境づくりに努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己評価表の実施、研修の参加を勧め個々の能力スキルアップ向上に努めている。	職員個々の力量を把握しそれに応じた研修を受け職員会議等で報告をすることでスキルアップに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設等の交流を図りネットワーク作りや勉強会を通してサービスの質の向上に努めている	運営推進会議の相互訪問や見学の受け入れ等を通して情報交換を行いサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	うめ 実践状況	実践状況
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様や家族様とコミュニケーションを図り、利用者様の意思を汲み取り、馴染みの関係が持てる様に努めている。	家族や本人とコミュニケーションを十分に図り、本人の生活歴やペースに合わせ無理強いをせず安心感がもてるような関係作りに努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の意見を聞き、話し合う場を持ち、信頼関係が持てる様に努めている。	家族等の意見や要望を取り入れながら、不安を取り除き信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様と家族様が求めているサービスを提供し、その他のサービスへの対応に努めている。	本人と家族が必要としている優先されるサービスを中心に提供し他のサービスの利用も含めた対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などを共に行う中で、利用者様の出来る事を探しお互いに役割を持ちながら信頼関係を築いている。	家事等の軽作業を一緒に行う中で本人の出来る事を探しお互いに役割分担をしながら信頼関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等で家族で過ごせる時間や場を提供している。又、年賀状、写真、お手紙を送り日常の状況報告に努めている。	毎月近況報告や写真を送り年賀状や葉書を送り関係作りに努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の友人の面会や、電話の受け入れの機会を提供したり、居室やホールで楽しむ場を提供し関係が途切れない様に配慮する。	本人の馴染みの人の面会や電話の受け入れの機会を作ったり、居室やホールでゆっくり会話を楽しむ場を提供し関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを一緒に楽しんだり、共同作品を作ることで利用者様同士が仲良い関係を築けるよう努めている。	歌やゲーム・手芸で共同作品を作るなど、皆で喜びあえる場面を作り利用者同士が仲良い関係を築くことができるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	うめ 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても状況を把握し、本人様、家族様から相談を受ける支援を行い、関係を途切れない様に努めている。	サービスが終了しても家族連絡や入院時のお見舞い等で状況把握をし本人や家族へのフォロー、相談、支援を行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様や家族様の希望を把握し、その人らしい暮らし方が反映出来る様に努めている。	本人や家族等とコミュニケーションを図りできる限り、本人の希望や意向を把握反映し、その人らしい暮らし方ができるような支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境を把握、利用者様のこれまでの生活を反映できるよう努めている。	馴染みの家具等を居室に置いて使用する等出来る限りこれまでの生活環境を変えない暮らし方の支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能を把握し、日々の支援に努めている。	残存機能を把握し、職員が強要する事なく個々の日々の過ごし方に合わせた支援に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、利用者様、家族様の意見を取り入れ、個々にあった介護計画を作成している。	モニタリングを行い本人、家族等の意見やアイデアを反映した介護計画をたてている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画情報を職員の間で共有し介護計画の見直し、ケアのお実施に活かしている。	介護記録、モニタリング等で情報を職員間で共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族様の状況に合わせた支援やサービスを提供できるよう取り組んでいる。	その時々家族や本人のニーズに合わせて柔軟な支援やサービスが提供できるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	うめ 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパー郵便局、銀行等を利用し、一人一人が安全に生活の幅を広げ楽しめるよう支援している。	毎月移動図書館等を利用したり、銀行・スーパー等必要性に応じて地域資源を活用している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と相談しながら利用者様、家族様の意向を聞きながら、適切な医療が受けられるよう支援している。	本人、家族が希望する医療機関を受診しながらかかりつけ医と事業所との連携を図りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者様の体調を適切な受診や看護を受けられるように、医療申し送りノートを利用している。	医療連絡ノートを利用し個々の利用者の体調等を看護師に伝え適切な受診や看護を受けられるよう支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換することで、利用者様のダメージを軽減出来る様に、双方の関係作りを行っている。	入院の際は出来る限り馴染みの職員がお見舞いに行く事で関係を継続し退院の際も本人のダメージを軽減するために病院関係者との情報交換や相談等関係作りに努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療関係者を含め事業所で出来る事を、家族様、利用者様の意見を聞きながら支援に取り組んでいる。	重度化・看取りの指針を示し利用者家族に対し段階に応じ事業所で出来る事を説明し医療機関等を含めチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、介護職員による対応。救急方等の勉強会、消防を招いての訓練等を定期的に実施している。	AEDの説明会や救急法の訓練を定期的に行い実践力を身に付けている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、災害時における訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	消防署の指導のもと定期的に地震や火災訓練を行ない地域の方にも参加を呼び掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	うめ 実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個人のプライバシーの保護と尊厳に配慮し対応を行っている。	認知症についての勉強会を定期的に行き利用者のプライバシーに配慮した声掛けや対応方法を身につけて実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の自己決定を出来る事は声掛けを行い、希望を表したりして、頂けるよう働きかけています。	レク参加や入浴買物等日常生活の中でも利用者が希望を表したり自己決定が出来るように働きかけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人の心の状態を優先し決まりや都合を職員側の都合にならない支援をしている。	利用者の生活を職員側の都合に合わせず個人の生活ペースに合わせ支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った身だしなみが出来るように声掛けを行い支援している。また、時々メイクを施したりして、明るい気分で過ごして頂けるようにしている。	出張利用の利用などその人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう洋服選びやメイク等支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるようその人の好みを知り一緒に食が進むように支援している。	利用者の好みを献立に入れたり職員と一緒に準備や後片付け等に参加し食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の確保は好きな食べ物、飲み物等で不足分を補えるような支援をしている。	利用者の病状を把握し食事・水分量の確保に努めている。また利用者個々に合わせ食器や食事の形態に工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は声掛けを行い、他の方は職員が口腔ケアを行っている。	本人の力に合わせた口腔ケアを毎食後行っている。訪問歯科の指導のもと、清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	うめ 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様が自分の力でトイレに行き、排泄が出来るよう環境を作る。それに伴う筋力や感覚を共に養えるよう支援している。	本人の力や排泄パターン習慣を生かしてトイレの声掛けや誘導を行い自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や食事量を注意し、適度の運動を行う。便秘症の方には、温かい物をお出しし、排便がスムーズにいくように支援している。	排泄や水分チェック表を利用し適度な水分補給や運動の声掛けを行っている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるように出来る範囲で利用者様の意見を尊重し、プライバシーなども配慮し支援している。	利用者の体調に合わせて個々のタイミングでゆったりと入浴出来るように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や生活リズムを配慮し、昼夜のメリハリを立て、支援する中でレク活動を通し、適度な運動を行い、安眠出来る環境を作る支援をしている。	利用者の生活リズムや寝具を調節し安眠出来る環境作りをしている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による薬剤管理を行っているが薬の目的副作用、用法を理解し誤薬や服薬漏れを防ぐよう支援している。	薬剤師による薬剤管理を行っているが、服薬後も体調の変化がないかの確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力や、やる気を理解し活動限界を把握し生活歴や嗜好品楽しみ事を含めた上で張り合いや喜びのある日々を送れるよう支援している。	個々の力を生かした手芸やレク・家事等で楽しみごとや役割を担い楽しみや喜びのある日々を送れるよう支援している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望をあらかじめ聞いておき外出できる準備をしておくよう支援していき、墓参り、外出支援などを安全に行う事が出来るよう支援している。	ドライブ・買物支援等利用者の希望に合わせた外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			さくら 実践状況	うめ 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様個々の希望や能力に応じ金銭管理や買物支援を行っている。又、外部からの移動販売(週3回)により利用者がお金を使える機会作りも行っている。	移動販売での買い物や外出の際、個々の能力や希望に合わせお金を使える喜びを感じられるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ電話の利用や季節の便りを毎月一回近況報告の手紙を出している。	年賀状や暑中見舞い、又電話のやりとり等が日常的に行えるよう支援している。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が常に、心地よく過ごせるように清潔を心掛け、又、年間を通じて季節感を味わって頂けるよう飾り付けをしたり、月間行事の写真等を貼り季節を体感できるような空間づくりに努めている。	共有の空間には利用者が落ち着いて過ごせるよう季節感を取り入れ清潔で居心地良い生活が出来るよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファ、テラスにはテーブルと椅子を設置し利用者様が思い思いに過ごせるように工夫している。	ホール以外・廊下にもソファを設置して気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるように居場所づくりの工夫をしている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を置き明るい雰囲気の中で利用者様の居心地良く過ごせる空間作りに努めている。	居室には本人の馴染みのある家具等を設置し居心地良く生活できるような支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室等には、大き目の表示を行い、又、ホームのテーブルにも記名表示を行うことで場所の認識がしやすく建物はバリアフリー使用で安全かつ出来るだけ、自立した生活が送れる様に配慮している。	本人のレベルに合わせトイレや風呂場、許可をもらった方の居室用の表示を行うなどの配慮をし安全かつ出来るだけ自立した生活出来るように工夫している。	